

令和2年度 学校目標評価最終評価

領域	対象	具体的な目標	目標達成のための行動計画・方策など	評価	代表的な意見・評価の理由	
教育活動	全般	生徒の自主性を育てる	自主活動についての議論の場を設定。生徒自らの手で主体的・自主的な学校生活を送るための支援。	4.2	【自治活動支援】 自治の尊重と放任の線引きは難しい場合もあるが、できる限り本校の伝統を受け継ぎ、この精神を涵養させるべく努力した。 【自治活動成果】 コロナ禍においてのとんぼ祭開催であったが、生徒たちは悩み抜いた末に、大きな成果を挙げることができた。	
	学習指導	広い分野で確かな学力を養う	基礎学力の育成。自学自習ができる向上心・探究心の涵養。探究的な学びの推進。	4.4	【土曜日活用の研究】 進路講演会やガイダンスおよび学年合同ホームルーム等において、目標を明快にして学ぶ姿勢を持たせるように努力した。 【学年の実践】 ・コロナ禍により、はからずも自学自習が強く求められることとなったが、多くの生徒は必要性を認識して、自ら学ぶ姿勢をとることができた。 ・オンライン授業から通常授業への移行もスムーズに行われ、休講によるダメージを最小限におさめた。 ・冬季に、国数英の学力クラスマッチを行い、学年全体で学力の底上げを図った。また、週二回、生徒一人ひとりの学習時間を調査し集約して生徒に還元した。	
		進路希望の実現を図る	新教育課程の研究。生徒の資質・能力を高める指導方法の研究。	4.1	【教育課程の研究】 ・昨年度から十分な時間をかけて議論し、探究的な学習を十分に取入れた教育課程を作成できた。 【探究活動】 ・休校中もオンライン授業に取り組み、各教科の学習を行った。 ・個人の探究活動に加え、信大連携ゼミもあり、充実していた。	
	進路指導	計画的な指導を行う	外部講師による進路講演会、大学説明会、卒業生との懇談、進路通信、学年集会、個別面談、適性検査等を通じた進路意識の啓発。企業や大学と連携したキャリア教育の充実。教員を対象とした進路指導研修会の実施。	4.1	【係の実践】 コロナ禍ではあったが、感染拡大防止に最大限配慮し、WEB方式を取り入れるなどの工夫をしながら、計画的に取り組みすることができた。 県外からの講師派遣による企画(医学部医学科対策講座)は実施を見送った。 【学年進路】 ・感染対策の面から一堂に会した学年集会という形はとることはできなかったが、適宜HRを通じて必要な時期に指導することができた。 ・Zoomを利用して、進路講演の一斉視聴を行った。 ・進路指導主事をはじめ、年三回の講演を行った。	
	生徒の自治	自治活動を保障し自治的精神を育成する	学級活動・部活動・生徒会活動における生徒の自主性や、リーダー育成のための機会の保障と指導助言。文化祭・講演会など生徒会行事に対する支援と指導助言。	4.4	【自治活動の涵養】 ・「自治」の精神に基づき、生徒の自主性を尊重しつつ、広く社会に受け入れられる人間形成の場として、助言・指導・支援を行っている。 【生徒会】 ・とんぼ祭をはじめ、生徒会行事ではコロナ禍で感染症予防対策に十分留意しながら、できることを考えた。生徒の自主的な考えを最大限取り入れ、十分な成果を得たといえる。	
	生活指導	規律ある生活のリズムをつくる	学習を中心とした生活リズムの確立(部活動・生徒会活動の時間の適正化)。清掃・保健・交通安全指導。	4.0	【生活リズムの管理・交通安全】 ・自転車事故防止と交通マナー向上のため、HRでの注意喚起や、全職員による街頭指導(10月～11月)を実施した。事故が起きた場合には、各学年で注意喚起を迅速に行った。 ・本校東門付近の交通マナー向上のため、交通安全委員会が早朝より注意喚起の呼びかけを行った。(1月～2月) 【学年の実践】 特編も含め、授業を欠席しないよう呼びかけをして、一定の効果はあったと思われる。また、3年間を通して、明るく挨拶はよくできたのではないかとと思われる。 ・コロナ休校中も時間割を決めて授業配信を行い、生活リズムを崩さないよう指導した。 ・年度当初においては、Zoomで一学年合同ホームルームを実施し、生活リズムが崩れないように努めた。また、冬季の学習強化月間で、学習リズムをつかんだと感じる。	
		適切な個人指導及び生徒に寄り添う姿勢の構築・充実	HR担任、教科担任やクラブ顧問等の密な連携。スクールカウンセラーとの連携。きめ細やかな生徒相談の呼びかけと実施。保護者との懇談機会の確保。	4.2	【カウンセリング】 ・スクールカウンセラーとの密な連携。 ・カウンセラーのみならず、「身近な大人」として生徒の苦しみ・悩みを吸い上げる姿勢の醸成を目指した。 【サポート体制】 ・関係部署を繋ぐ役割を担うことに務めた。 ・学年会での情報共有できる情報を頻度高く共有できるようにし、学年内で閉じることなく問題を共有しようとした。 ・状況に応じ、メール等も用いて多忙中でも情報が共有できるなどの工夫に努めた。	
	学校運営	安心安全な学校	快適な学校環境の整備を図る	危機管理体制の整備。いじめ・体罰のない学校環境の確保。健全な職場づくりの推進。環境対策(ゴミの削減、電気・水道使用量の削減)。	4.0	【いじめ・体罰への対応】 ・日々の観察と共に、学校生活アンケートの結果を踏まえて必要な対応を行った。 【職場環境】 ・コロナ感染症対策のための換気の励行に合わせ、暖房やエアコンの利用についても配慮している。 【環境対策・危機管理】 コロナウイルス感染症対策については、県等からの通知を受けて必要な対策をとるとともに、生徒・保護者に対する注意喚起・情報提供を行った。
		開かれた学校	保護者との連携を図る	PTA総会の開催、学年・学級PTAの開催。地区PTAの開催。保護者面談の実施、適切な家庭訪問の実施。緊急時メール・システムの活用。	4.2	【緊急時メール・システム】 新型コロナウイルス感染症への対応や、日課・行事予定等の変更などを、一斉配信メールシステムを活用して、生徒・保護者に連絡した。 【PTA活動・他校との交流】 本年度コロナ禍のため、予定した活動は感染症対策でできなかった。
		開かれた学校をめざす	「評価および公開方法」の改善と充実。保護者・地域・中学校への情報発信。公開授業・中学生体験入学等の実施。学校評議員会の開催、ホームページの充実。	4.4	【授業公開・体験入学】 例年並の規模では実施できない部分もあったが、できる範囲で実施し、概ね好意的な評価も得られた。 【中学校・地域への発信】 直接来校してもらえることが、本校を理解してもらう最適な方法であるということ、本年度ほど感じられた年はなかった。	
学校の情報化	ICTを活用した学校環境の整備を図る	ICT(情報通信技術)を活用した学習の研究、充実。	4.8	【授業への活用実践】 ・自主作成した実験映像や、動画教材などを充実させ、効果的に用いて実践している。 ・対面授業で電子黒板を活用し、教材の投影や解説など活用している。 ・デジタルコンテンツや自作のデジタル教材などを活用して、生徒がイメージしやすくなるよう心がけた。 ・電子黒板、デジタル教科書、パワーポイントを用いて、生徒の興味を引く授業の展開を図った。 【授業への活用研究】 ・遠隔授業、動画配信などの方法を研究、改良した。また、電子黒板を利用して、同時に複数教室への配信方法を研究し、その手法を職員に共有できるよう情報発信をおこなった。 ・休校期間中のオンライン授業や動画配信など、各担当が工夫して行うことが出来た。 ・Zoomによるオンライン授業や項目ごとの動画配信、デジタルコンテンツの作成など、様々な取り組みができた。今後は、協働的な学びができる演習方法の研究が必要である。 【学校運営への活用】 各種アンケートの集約等にICTを活用することで、効率的な学校運用を目指し、運営した。		